

● 活動目的

1. 臨床研究のサポート（臨床研究支援部門）
2. 難治性循環器疾患の病態解明と新たな治療法開発（基礎研究部門）

● 活動状況

1. 臨床研究支援部門

1) 支援体制と業務内容

- a) 支援体制：CRC1名，事務員2名
- b) 業務内容：院内で行われる臨床研究の支援業務の準備を行っています。

2. 基礎研究部門

1) 体制

- a) 構成員：医師1名，客員研究員2名，技術補佐員1名
- b) 競争的資金獲得状況：
2018-2020年 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 肺高血圧症新規治療標的探索のためのPDGF経路新規下流エフェクター解析
武田科学振興財団 医学系研究助成 血小板由来増殖因子シグナル伝達経路を標的とした肺高血圧症治療の最適化
- c) 共同研究機関：岡山大学薬学部，京都大学ゲノム医学センター，神戸薬科大学，日本女子大学理学部，東北大学工学部，アリゾナ大学，ウィーン医科大学内科学講座Ⅱ，岡山大学大学院医歯薬学総合研究科薬理学分野

2) 研究内容と成果

- a) 難治性循環器疾患のひとつである肺高血圧症の病態解明と新規治療法の開発を目指して基礎/臨床研究を行っています。
- b) 2019年4月にウィーン医科大学内科学講座Ⅱ Irene M. Lang先生が来院され，研究の成果を発表し，意見交換を行いました。



- c) 肺高血圧症の中でも稀な肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症の臨床的診断法をまとめた論文(Ogawa A, Takahashi Y, Matsubara H. Clinical prediction score for identifying patients with pulmonary veno-occlusive disease/pulmonary capillary hemangiomatosis. J Cardiol. 72; 255-260. [2018])が, 日本心臓病学会の 2019 年度優秀論文賞に選出されました。
- d) 当院での肺高血圧症の治療方針をまとめた Invited editorial (Should oral combination therapy be the standard of care for pulmonary arterial hypertension?)が掲載されました。
- e) 指定難病のひとつである肺動脈性肺高血圧症の治療薬開発に応用できる新たな実験法を開発しました。

三次元培養技術を応用し, 当院で治療を行った患者様から提供していただいた肺動脈の平滑筋細胞を用いて, 肺動脈中膜肥厚を試験管内で再現することに成功しました。この肺動脈中膜肥厚の試験管内モデルは, 肺動脈性肺高血圧症に対する新規治療薬探索への貢献が期待されます。

● 研究業績

1. 論文発表

Chausheva S, Naito A, Ogawa A, Seidl V, Winter MP, Sharma S, Sadushi-Kolici R, Campean IA, Taghavi S, Moser B, Klepetko W, Ishida K, Matsubara H, Sakao S, Lang IM. Chronic thromboembolic pulmonary hypertension in Austria and Japan. J Thorac Cardiovasc Surg. 158(2); 604-614.e2. (2019)
Ogawa A, Matsubara H. Should oral combination therapy be the standard of care for pulmonary arterial hypertension? Expert Rev Respir Med. (in press)

2. 学会、研究会

Ogawa A. Balloon Pulmonary Angioplasty: Defining Essential Differences in Procedure Technique and Uniform Definitions of Complications. International Society for Heart and Lung Transplantation 2019 39th Annual Meeting and Scientific Sessions, April 6, 2019, Orland, FL, USA

3. 講演

肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症(PVOD/PCH)を見極める

小川愛子

第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 2019年6月21日, 浜松